



日本家族看護学会

Japanese Association for Research in Family Nursing

International Exchanges Committee
Newsletter - July 2021 Vol. 3

■委員会だより

日本家族看護学会第28回学術集会国際交流委員会企画交流集会

～家族看護学の若手研究者・実践者でネットワーキングをしませんか～

国際家族看護学会（IFNA）の Student Engagement Group には 19 개국、33 人のメンバーがいます。

代表の Wendi Smith 氏にこのグループの活動を紹介していただき、家族看護学を学んでいる世界の大学院生の活動を具体的に伺いたいと思います。現在、日本家族看護学会には「学生・院生（若手）の会」はありませんが、今後、家族看護学を学び、実践していただく若手の皆さんにどのようなニーズがあるか、若手のサポーターであるベテランの家族看護学教育者、実践者の方にも参加していただき、広くディスカッションしたいと思います。

IFNA の Student Engagement Group には日本からのメンバーが今はいませんが、そこにも参加したくなる人がでてくること・・・も期待します。

■活動報告

2021年5月29日（土）「国際家族看護学会の活動を知ろう」Webセミナーを開催しました。

International Family Nursing Association（IFNA）について、各種委員会の目的とその活動を IFNA の Webinar/ビデオレター日本語字幕付きでご紹介しました。また、IFNA の実践委員会活動として、高度実践看護師の家族看護能力に関するポジションステイトメントについてもご紹介しました。さらに、IFNA 国際共同研究について、賀数勝太氏（聖路加国際看護大学）、坂本佳津子氏（兵庫県立こども病院）より「ICU に勤務する看護師の家族看護に関する認識」の 10 ヶ国国際共同研究のご発表がありました。賀数氏、坂本氏よりご発表後、メッセージを頂戴しましたのでご紹介します。

●自分はまだ若手研究者として自立途中であるが、IFNA を通じた国際共同研究（10 개국）に携わりながら研究手法や研究者間のコミュニケーション方法、コラボレーションの統括の仕組みなどが勉強できたことに大きな達成感があった。自己の課題としては、英語、タイムラインに合わせた実行力などがあるが、海外の研究者はとて寛容なので言語のバリアに萎縮せず、自分自身にできることを精一杯共有することが多様な家族看護学のあり方を究めるコラボレーションにつながることを強く実感した。（賀数勝太氏）

●今回、臨床の看護師である私にとって、IFNA の研究に参加したことは、日本の小児集中治療という狭い世界と、そこでもがく自分自身を広い視野で見直し、さらなる可能性を感じられる機会となりました。「英語の壁」と感じていたのはただの自分の心の壁でしかなかったように思います。「とりあえず」一歩踏み出し、多くの価値観に触れるチャンスを今後は自分でも作っていきたくて考えています。（坂本佳津子氏）

■世界の車窓から

世界的なキャンペーンとなった Nursing Now キャンペーン(以下 NNC)は、2020 年末に終了予定でしたが、2020 年の COVID-19 の影響により、2021 年 5 月の世界保健総会(World Health Assembly: WHA)まで延長され、国際看護師協会(International Council of Nurses: ICN)へ引き継がれることになりました。NNC としての最後のイベント"Global Footprint"では、参加グループから NNC の成果や活動について報告されました。また、NNC の一環である、若手看護師のリーダーシップを育成するために雇用者がエントリーするプログラム"Nightingale Challenge"は、これも ICN へ" Nursing Now Challenge"として引き継がれました。日本においても、日本看護協会 1)と千葉大学 2)がエントリーし、若手の政策力強化やリーダーシップ育成に活用できる動画が公開されています。

1)https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/nursing_now/#ng

2)<https://3next.net/>

国際交流委員会メンバー：●委員長：池田真理

●委員：荒木暁子、上野里絵、本田順子、山花令子、山本弘江